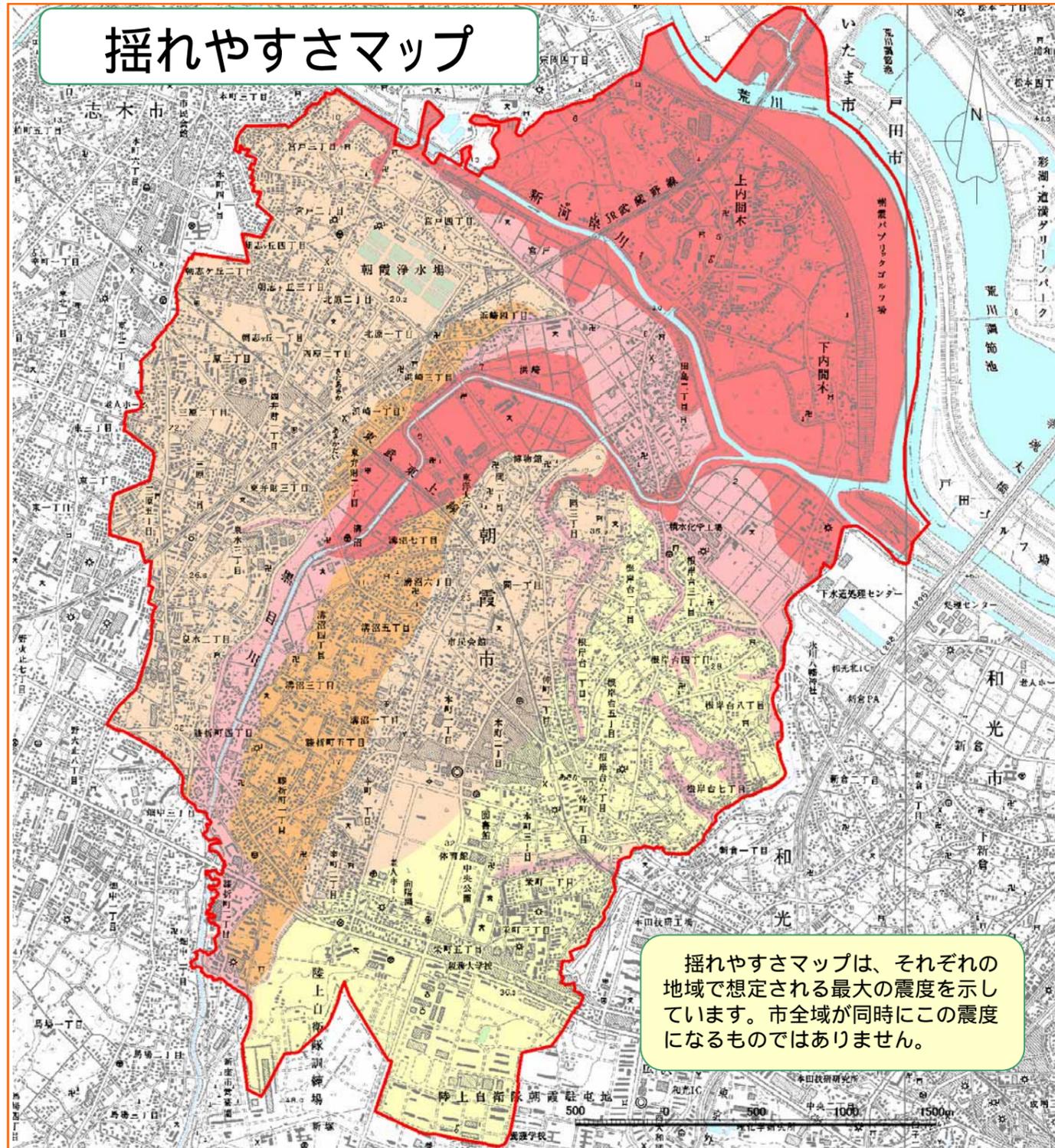
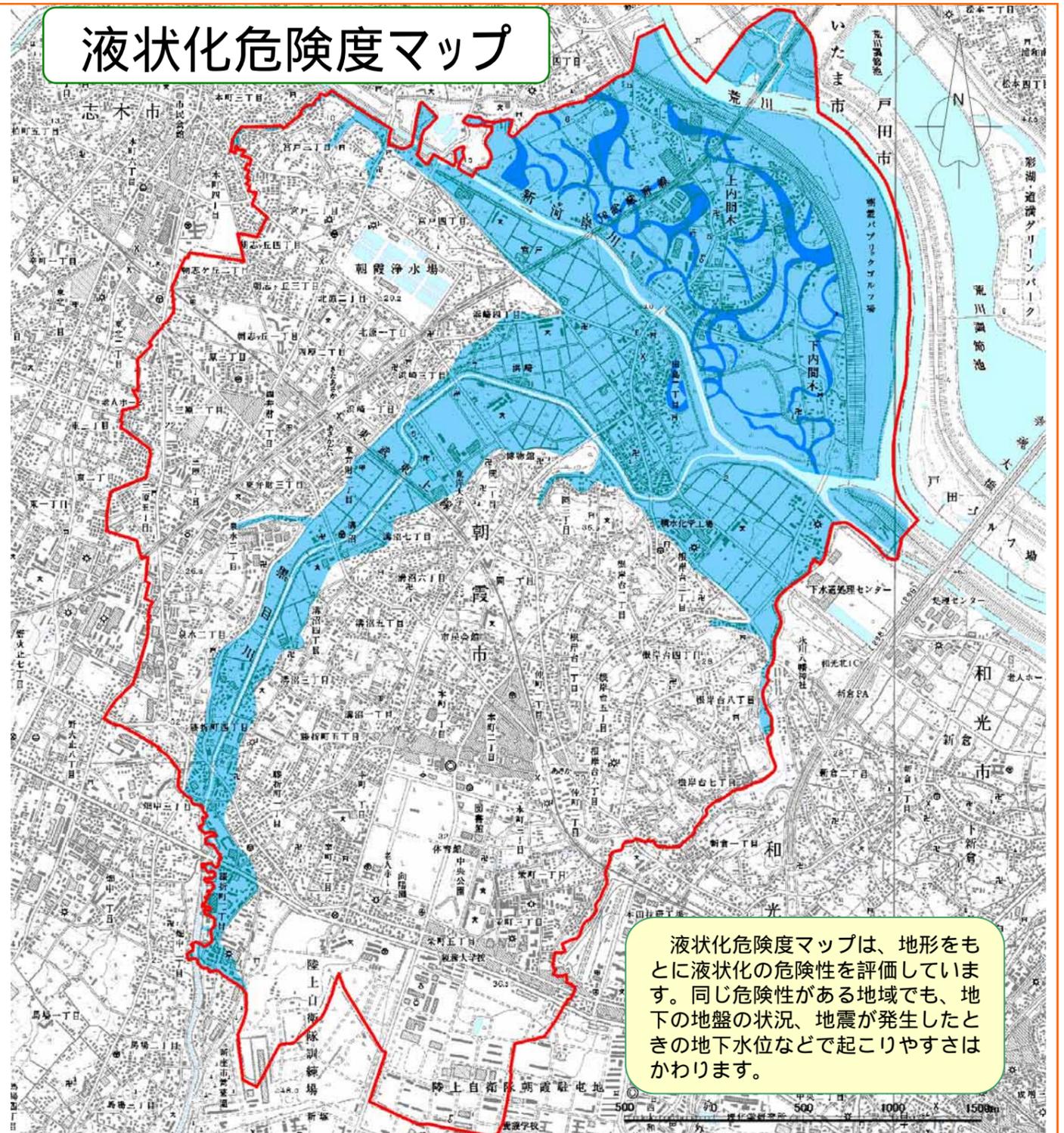


揺れやすさマップ



揺れやすさマップは、それぞれの地域で想定される最大の震度を示しています。市全域が同時にこの震度になるものではありません。

液状化危険度マップ



液状化危険度マップは、地形をもとに液状化の危険性を評価しています。同じ危険性がある地域でも、地下の地盤の状況、地震が発生したときの地下水位などで起こりやすさはかわります。

凡例 出典) 気象庁震度階級関連解説表

震度階級 (計測震度)	震度6強 (6.0以上6.5未満)	震度6弱 (5.5以上6.0未満)
	強い揺れ ← (6.3) (6.2) (6.1) (6.0) →	(5.9)
屋内の状況	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
屋外の状況	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
木造建物 (住宅)	耐震性が高い: 壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。耐震性が低い: 壁などに大きなひび割れ・亀裂が入るものが増える。傾くものや、倒れるものが増える。	耐震性が高い: 壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。耐震性が低い: 壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

Q液状化とは?

液状化とは、地震によって地盤が液体ようになる現象で、水分をたくさん含んだ砂質の地盤で多く発生します。液状化が発生すると、地盤の上の建物を傾かせたり沈ませたりします。平成5年の北海道南西沖地震や平成7年の阪神・淡路大震災、平成19年の新潟県中越沖地震では、建物やライフライン、海岸や河川の構造物などに大きな被害をもたらしました。

凡例

液状化の可能性が極めて大きい		昔の河川跡などは、液状化の可能性が高い。
液状化の可能性が大きい		強い揺れで液状化が発生する可能性がある。
液状化の可能性はない		台地や段丘では、地下水位も低く、液状化は発生しない。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平20業複、第1048号)」